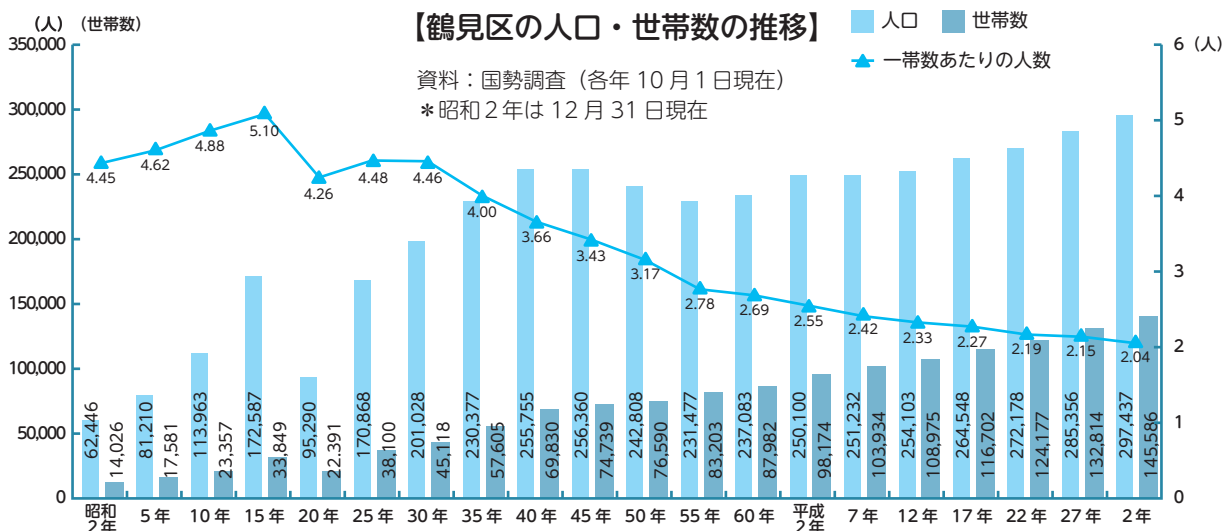


## 1 人口及び世帯数

### 人口はゆるやかに増加、一世帯あたりの人数は減少傾向

- ・令和2年10月1日現在、鶴見区の人口は297,437人(市内第3位)、世帯数は145,586世帯(市内第2位)となっています。
- ・人口、世帯数ともに増加傾向にあります。一世帯あたりの人数は減少しています。

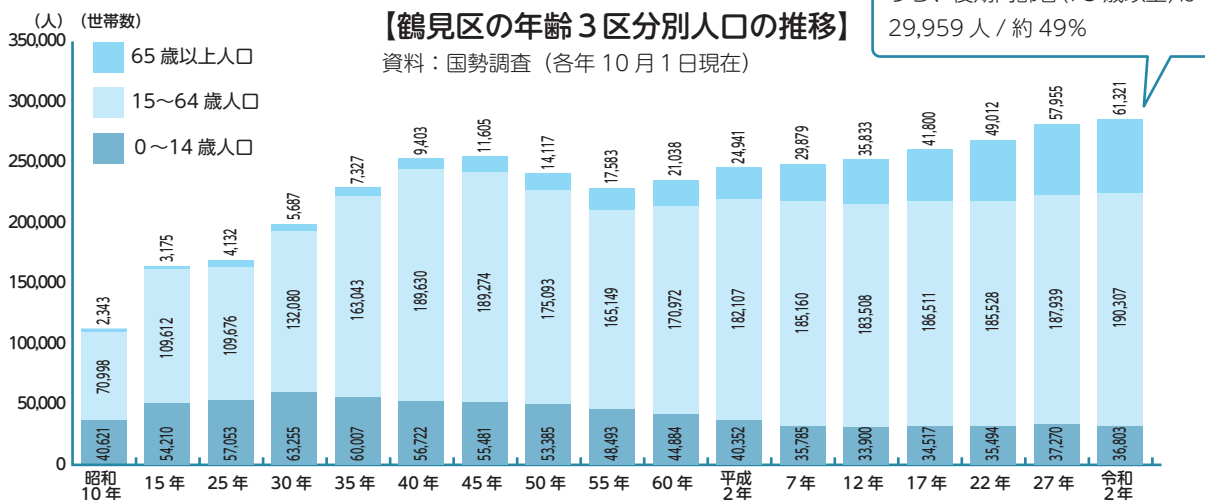


出典：発見つるみ～データで見る鶴見区～

## 2 年齢3区分別人口

### 65歳以上人口が増加

- ・65歳以上人口(老年人口)の増加が進んでおり、平成12年に0～14歳人口(年少人口)と65歳以上人口の数が逆転した後、近年その差が広がる傾向にあります。
- ・令和2年の65歳以上人口(老年人口)のうち、前期高齢者(74歳以下)の割合は約51%、後期高齢者(75歳以上)の割合は約49%となっています。



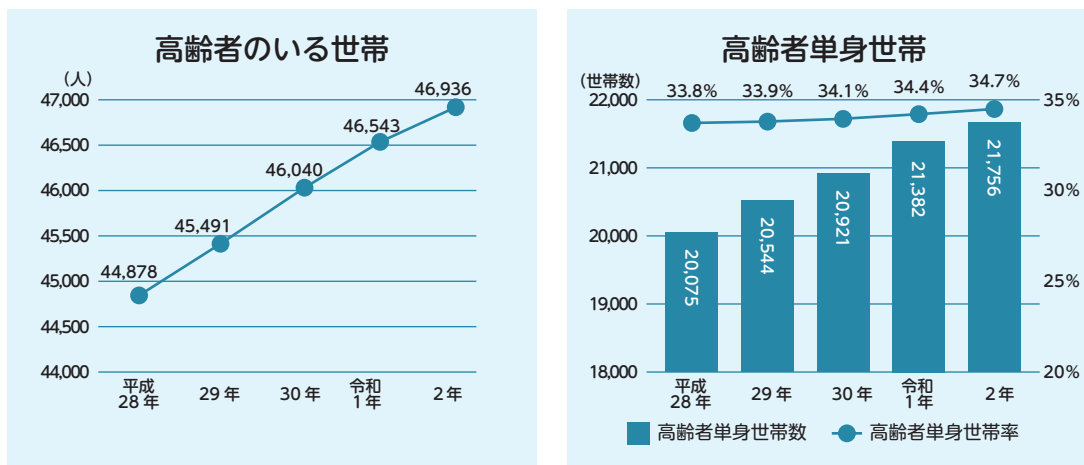
出典：発見つるみ～データで見る鶴見区～

### 3 65歳以上の方がいる世帯数

#### 高齢者単身世帯が特に増加

- ・ 高齢者のいる世帯は2016年(平成28年)から2020年(令和2年)の間に2,058世帯増え、高齢者単身世帯は1,681世帯増えています。
- ・ 高齢者のうち、高齢単身者の割合は概ね33%～35%前後となっています。

【65歳以上の方がいる世帯数の推移】



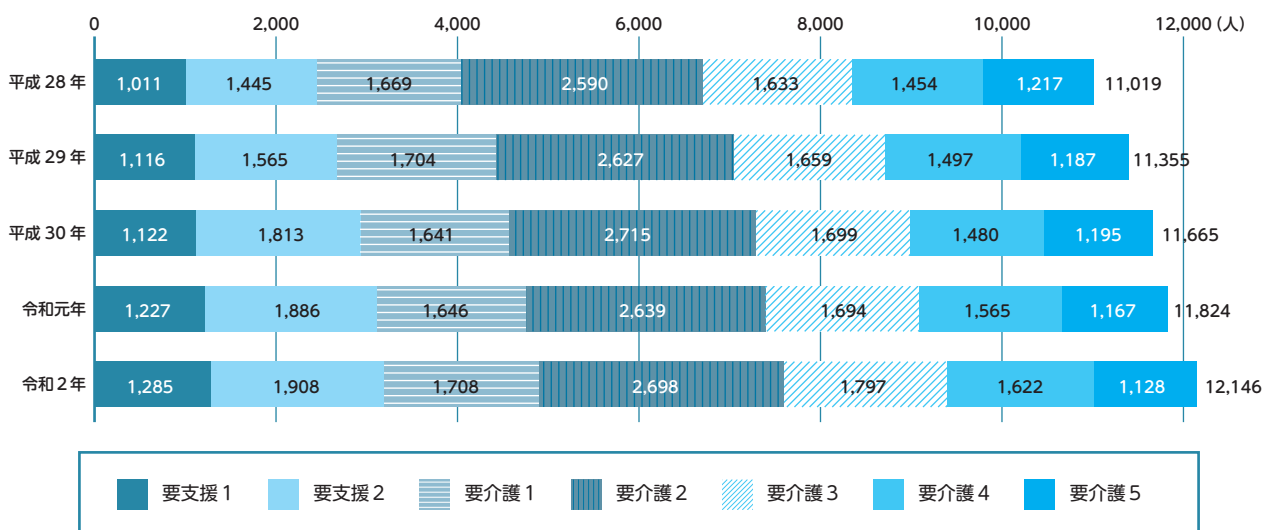
出典：要介護認定データ（区別高齢者世帯数）

### 4 要介護認定者数

#### 要介護認定者数が年々増加

- ・ 要支援・要介護認定者は2016年(平成28年)から2020年(令和2年)の間に1,127人増えています。
- ・ 令和2年末の要介護認定者数は、18区中4番目の多さになっています。

【鶴見区の要介護認定者数の推移】



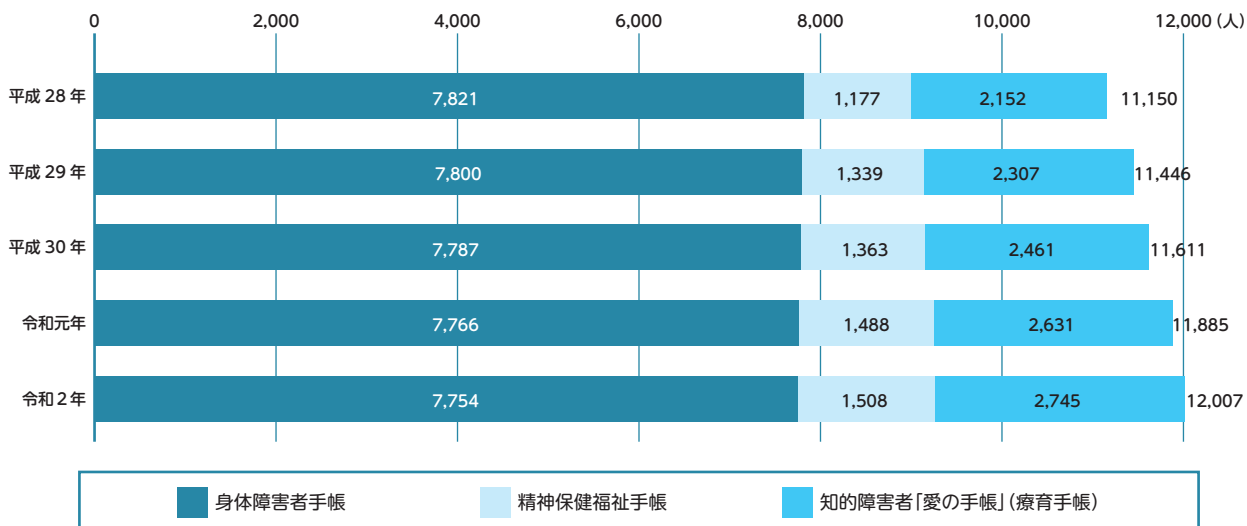
出典：要介護認定データ（区別・町別認定者数）

## 5 各種障害者手帳 所持者数

### 手帳の所持者数が年々増加

- ・各種障害者手帳所持者数は2016年(平成28年)から2020年(令和2年)の間に857人増えています。
- ・交付状況を見ると、「身体障害者手帳」は横ばい、「精神保健福祉手帳」と「愛の手帳」は増加傾向にあります。

【鶴見区の各種障害者手帳所持者数の推移】

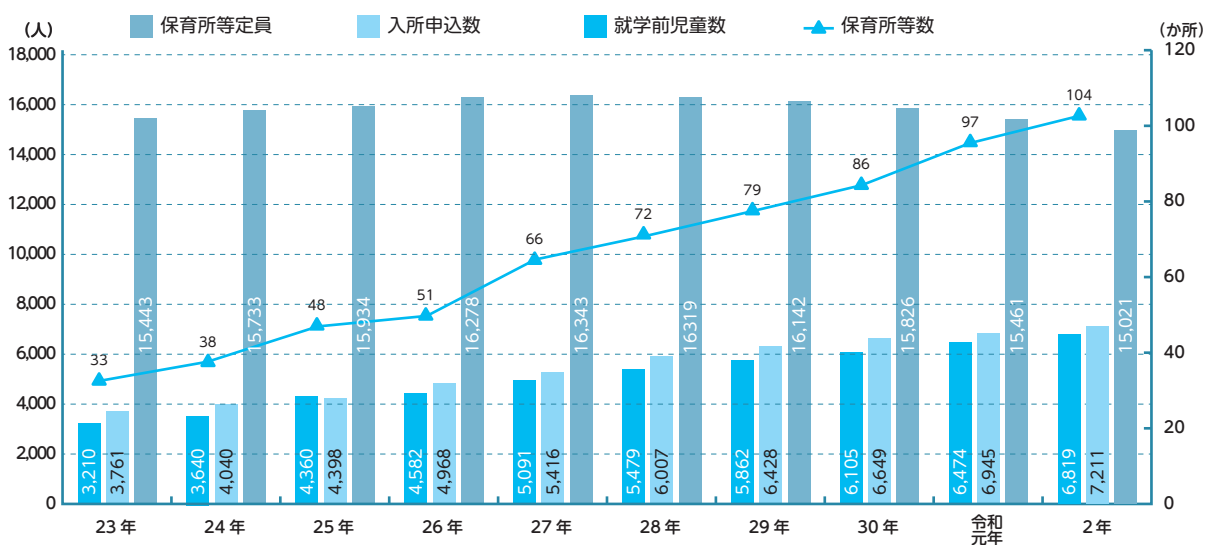


出典：横浜市統計書

## 6 保育所等の利用状況

### 保育所数、保育所等定員、入所申込が増加傾向

- ・就学児童数は減少傾向ですが、入所申込数は増加しています。
- ・就学前児童数、保育所等定員数ともに市内第2位(第1位：港北区)となっています。



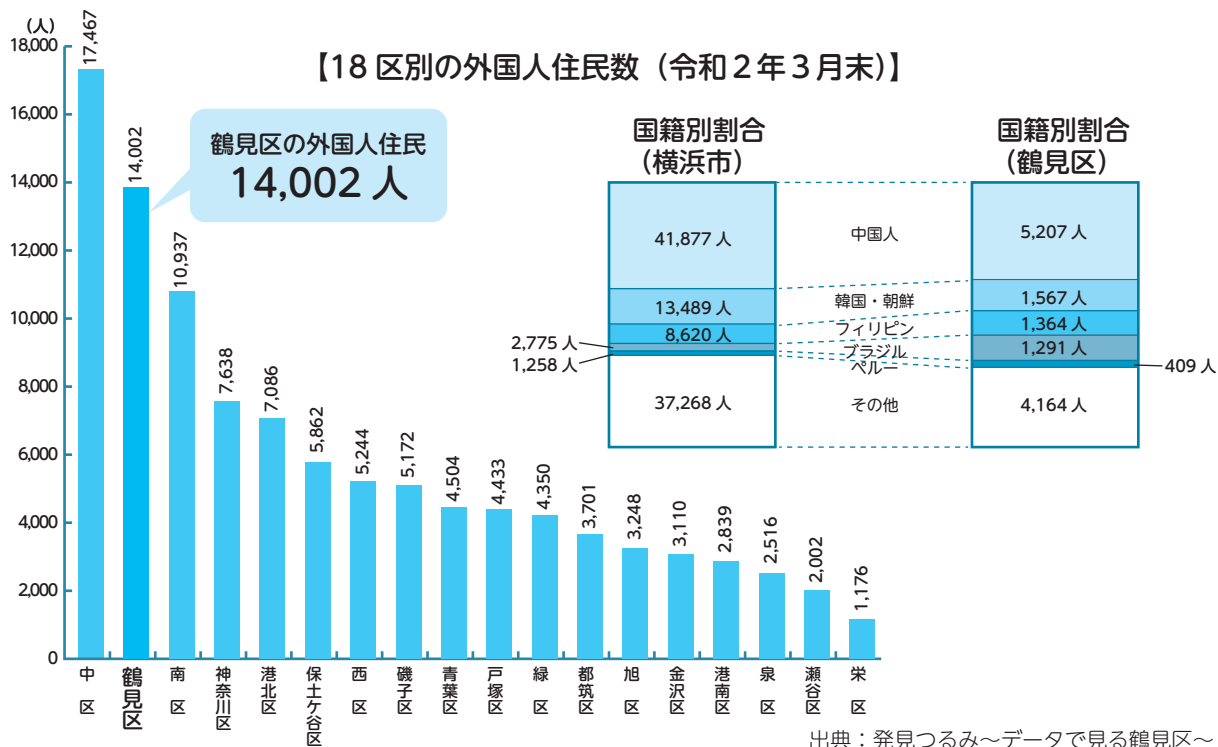
出典：発見つるみ〜データで見る鶴見区〜

保育所等：平成27年4月からは保育所・幼保連携型認定こども園のほか、地域型保育(家庭的保育、小規模保育、事業所内保育)を含む

## 7 外国人住民数

### 外国人住民数は、市内で第2位

- ・国籍別に見ると、中国、韓国・朝鮮、フィリピンの順に多く、横浜市全体と比べるとブラジルの構成比が大きくなっています。
- ・鶴見区は令和2年5月1日現在の外国人児童数が496人で、18区中第1位となっています。



出典：発見つるみ～データで見る鶴見区～

### 鶴見区から始まる多文化共生 (横浜市立東高等学校の取組)

鶴見区馬場にある横浜市立東高等学校では、次世代を担う高校生に対し、持続可能な社会づくりの担い手育成を始めています。令和3年6月23日及び24日の2日間には、「Glocal Citizenship Camp (グローバル・シチズンシップ・キャンプ)」が行われました。1年生273人全員と約40人の留学生が英語で議論し、互いの考えをチームで理解していくプログラムで、生徒は6～7名1組に分かれ、留学生と終日行動を共にします。東高校はユネスコスクール認定校として、“他人・社会・自然環境との関係性を知り、つながりを尊重できる人”を育てています。

こうした取組は、学校内にとどまりません。こども達だけでなく皆で多様性を学び、関心を持つことが重要です。

住む地域に一步踏み出すことで、多様な文化に触れ、誰もが安心して暮らせるまちづくりを、一緒に考えてみませんか？



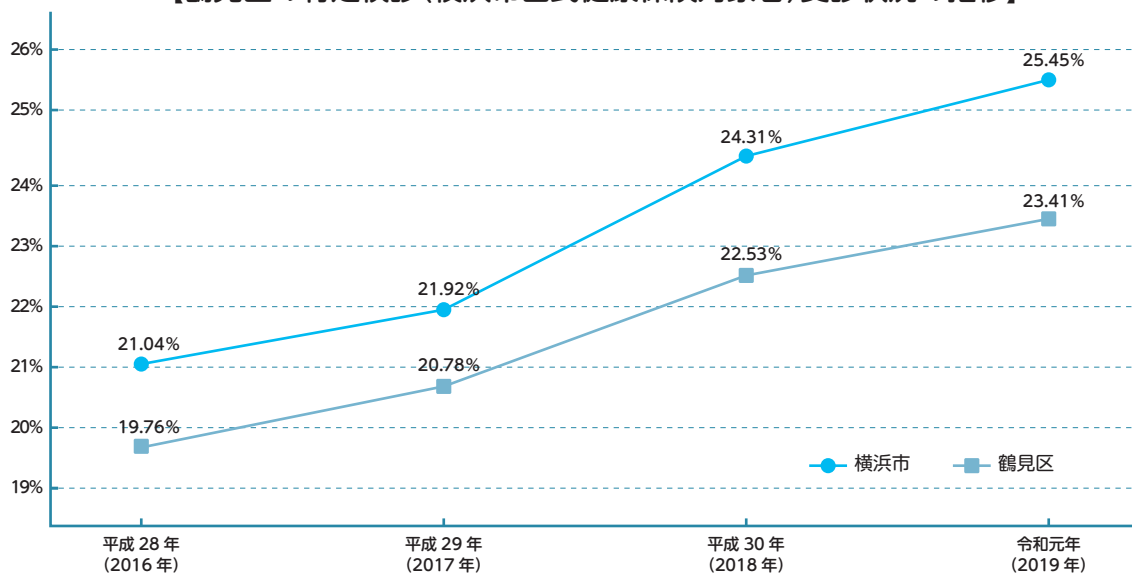
さまざまな国からの留学生と触れ合います

## 8 特定検診受診率（横浜市国民健康保険対象者）

受診率は向上してきているも、市平均より下位

- ・令和元年の鶴見区の特定検診受診率(横浜市国民健康保険対象者)は23.41%で、横浜市平均25.45%より低くなっています。

【鶴見区の特定検診(横浜市国民健康保険対象者)受診状況の推移】



\* 特定検診受診率 = 検診受診者数 ÷ 検診対象者数

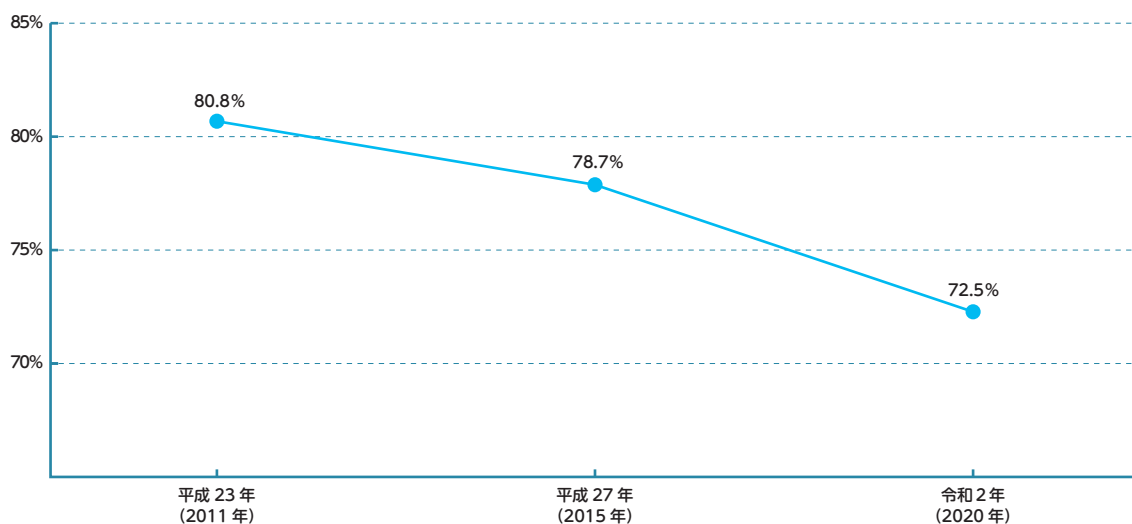
出典：横浜市統計書

## 9 自治会・町内会の加入率

加入率が年々減少

- ・平成 23 年の自治会・町内会加入率は 80.8%でしたが、年々加入率が下がってきており、平成 27 年には 78.7%、令和 2 年には 72.5%となっています。

【鶴見区の自治会・町内会加入率の推移(各年 4 月 1 日)】



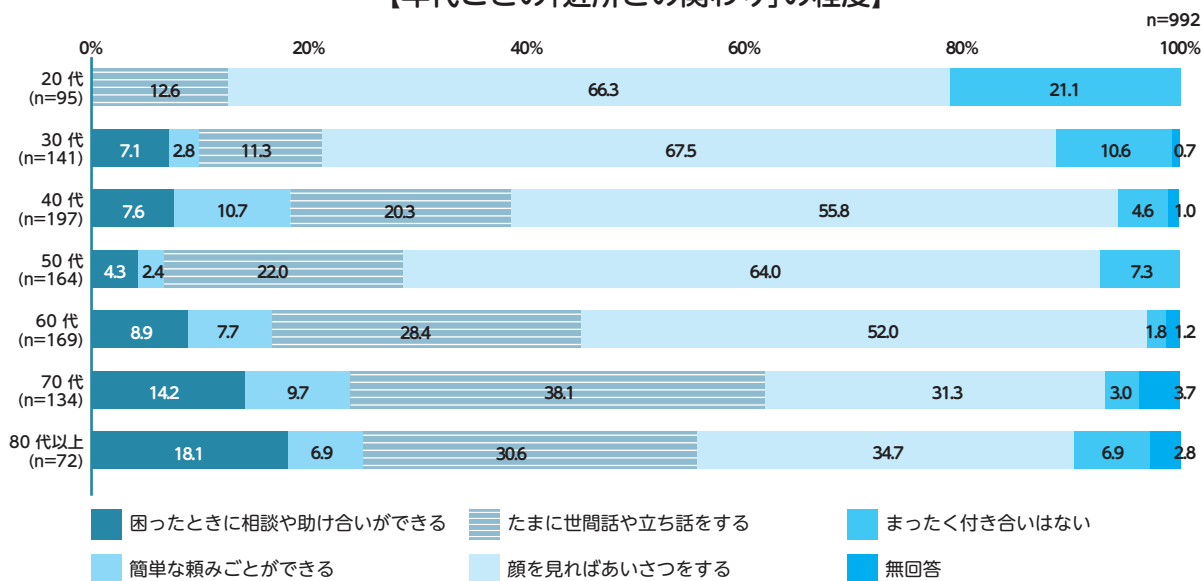
出典：市民局地域活動推進課

## 10 近所との関わり（現状及び今後の希望）

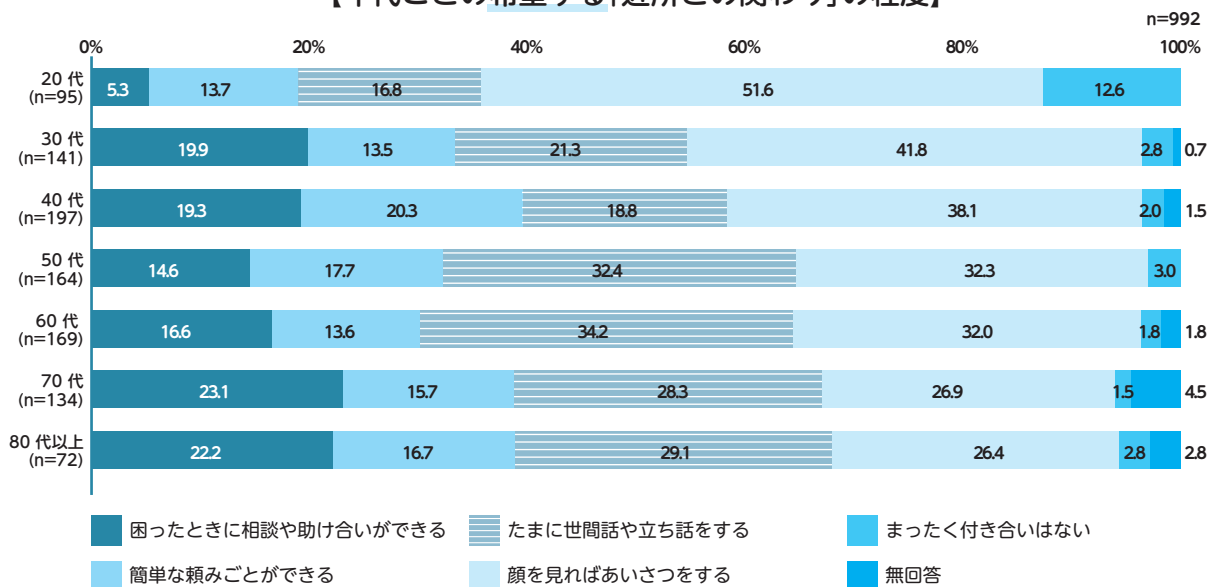
### 年代を問わず、つながりのある地域づくりを望む人が多数

- ・現状は、年代が高くなるほど地域とのつながりを強く持つ傾向があります。
- ・しかし、今後の希望では、世代を問わず多くの人がつながりを求めており、近所の人とあいさつ以上の「立ち話」や「簡単な頼みごと」、「困ったときの相談や助けあい」ができるよう望んでいます。

【年代ごとの「近所との関わり」の程度】



【年代ごとの希望する「近所との関わり」の程度】



出典：令和元年度第4期鶴見区地域福祉保健計画区民アンケート調査

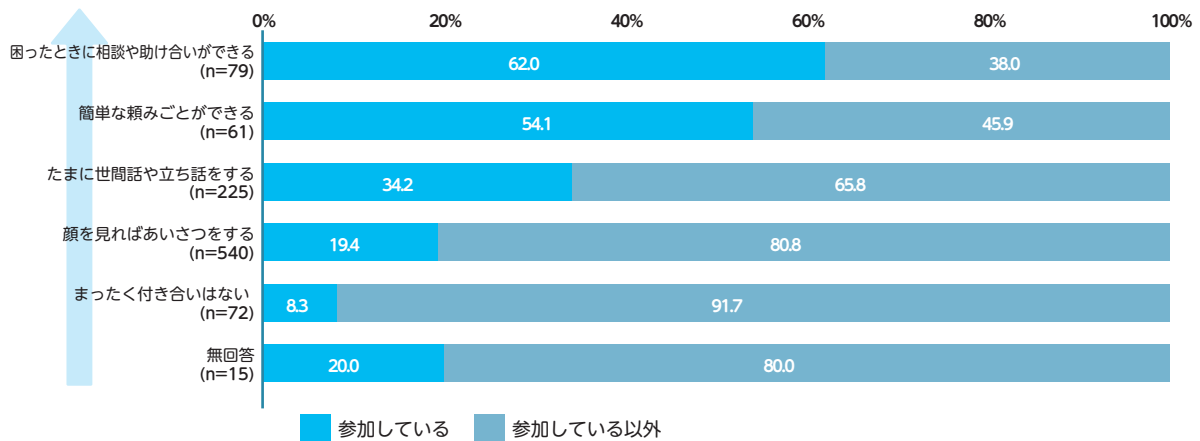
## 11 近所付き合いと地域活動参加状況の関係性

### 日頃の近所付き合いが親密であるほど、地域は元気に

- ・近所付き合いが親密になると、地域活動（地域行事や地域の見守り、体操やウォーキング等健康づくりなど）への参加率も高まり、まちに活気が生まれます。

#### 【近所の人との付き合いごとの「地域活動」参加状況】

何らかの地域活動に参加していますか。 n=992



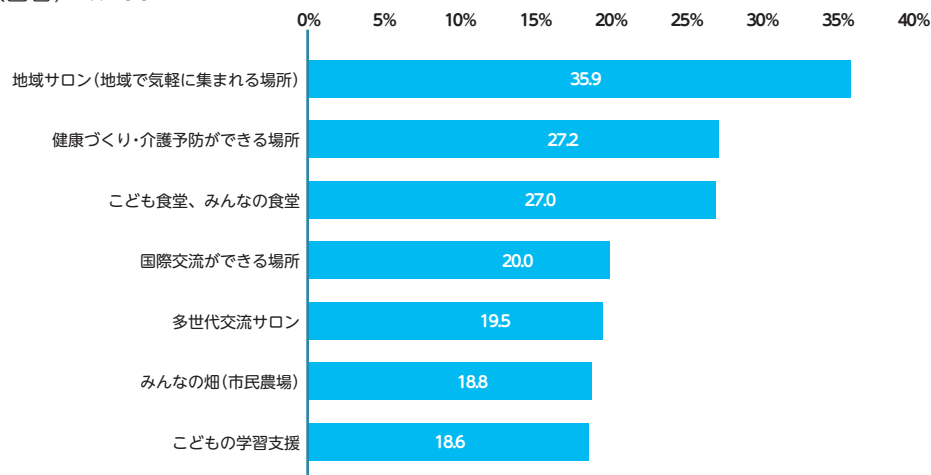
出典：令和元年度第4期鶴見区地域福祉保健計画区民アンケート調査

## 12 地域で求められている交流の場

### 身近に・気軽にふれあえることで、つながりが生まれる

- ・あったらうれしい交流の場として地域サロンが人気を集めており、身近で気軽な居場所が求められています。
- ・その他、健康づくり・介護予防ができる場所、こども食堂やみんなの食堂などにも需要があります。

地域の中で、あったらいいと思う交流の場について教えてください。(〇は3つまで)  
(複数回答) n=992



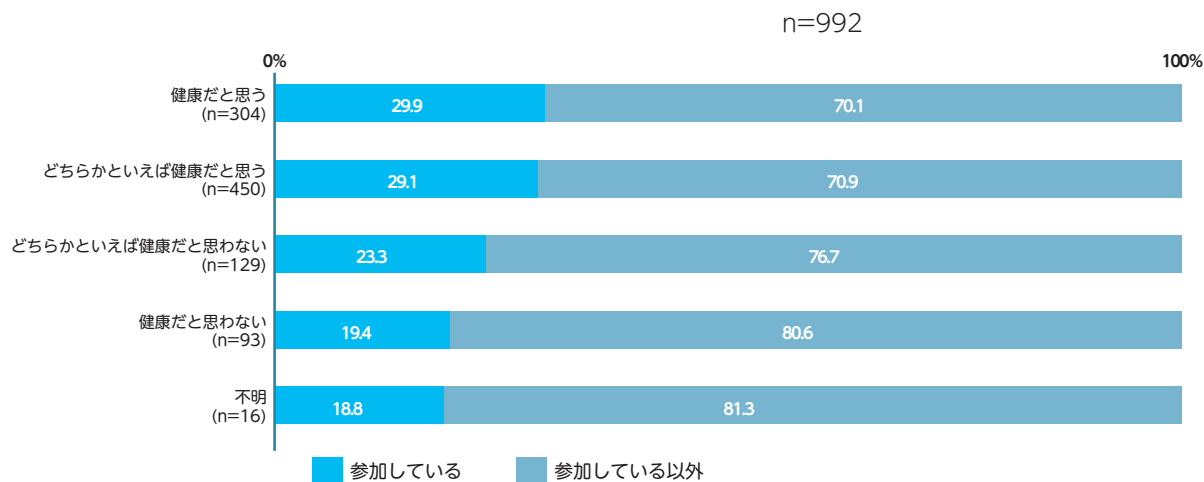
出典：令和元年度第4期鶴見区地域福祉保健計画区民アンケート調査

## 13 健康観と地域活動参加状況の関係性

### 地域活動に参加している人ほど、健康観が充実する傾向に

- ・地域活動に参加しているほど、自身のことを「健康」「どちらかという健康」と回答する人が増える傾向にあります。地域のつながりは、住民の健康にも良い影響を与えます。

#### 【健康観ごとの、地域活動参加状況】



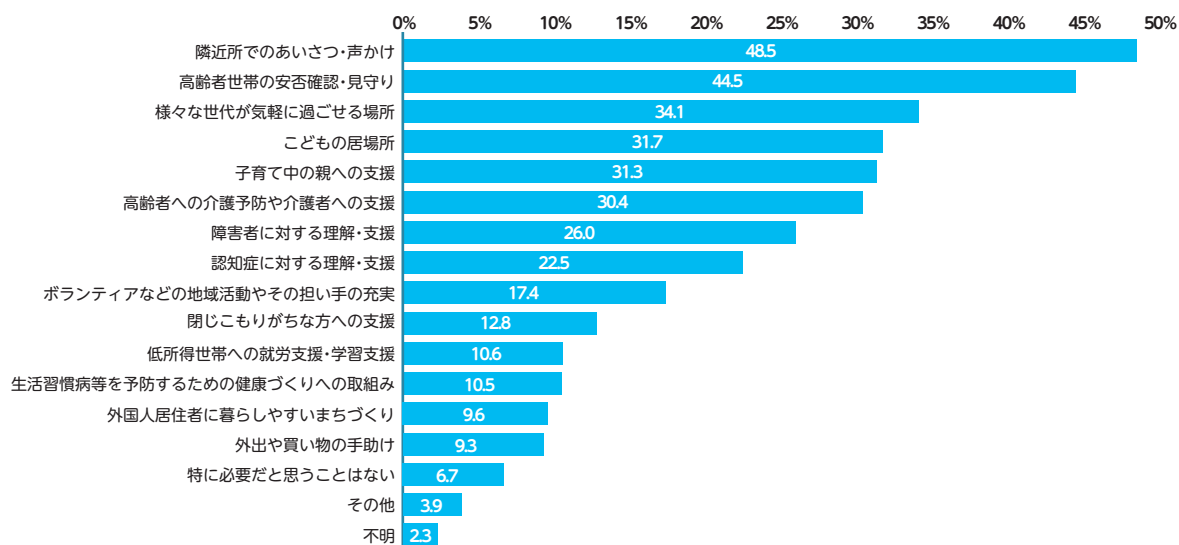
出典：令和元年度第4期鶴見区地域福祉保健計画区民アンケート調査

## 14 地域で求められている福祉保健活動

### 世代を超えた交流の充実は、まちの住みやすさに直結

- ・より住みやすい地域になるよう、近所でのあいさつや見守りを通じてゆるやかにつながることを多くの人が望んでいます。さらに、世代を超えて気軽に過ごせる居場所にも充実を願う声があります。

お住まいの地域がもっと住みやすくなるために、どのようなことが今後充実するとよいと思いますか？ (〇は5つまで) (複数回答) n=992



出典：令和元年度第4期鶴見区地域福祉保健計画区民アンケート調査

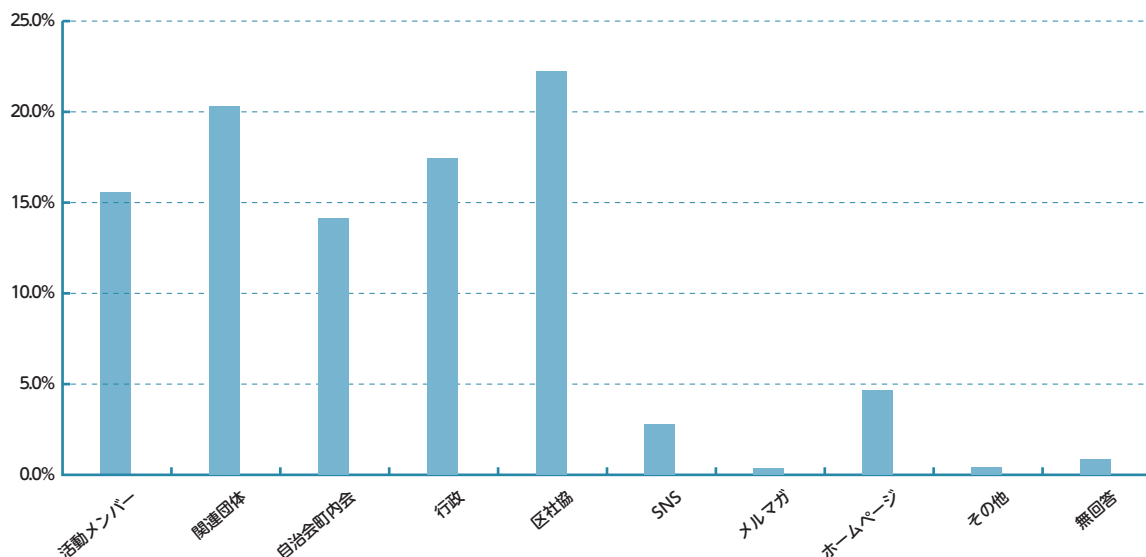


## 15 活動団体における必要な情報の入手先

### 活動団体同士の輪を広げ、連携を深めることが必要

- ・区内の福祉関係団体・機関や自治会・町内会、区役所、区社会福祉協議会などは、日頃から情報交換を進めています。これまで以上に連携を広げ、よりよい地域づくりにつなげることが大切です。

団体活動に必要な情報はどこから得ているか (n=210) \*複数選択可



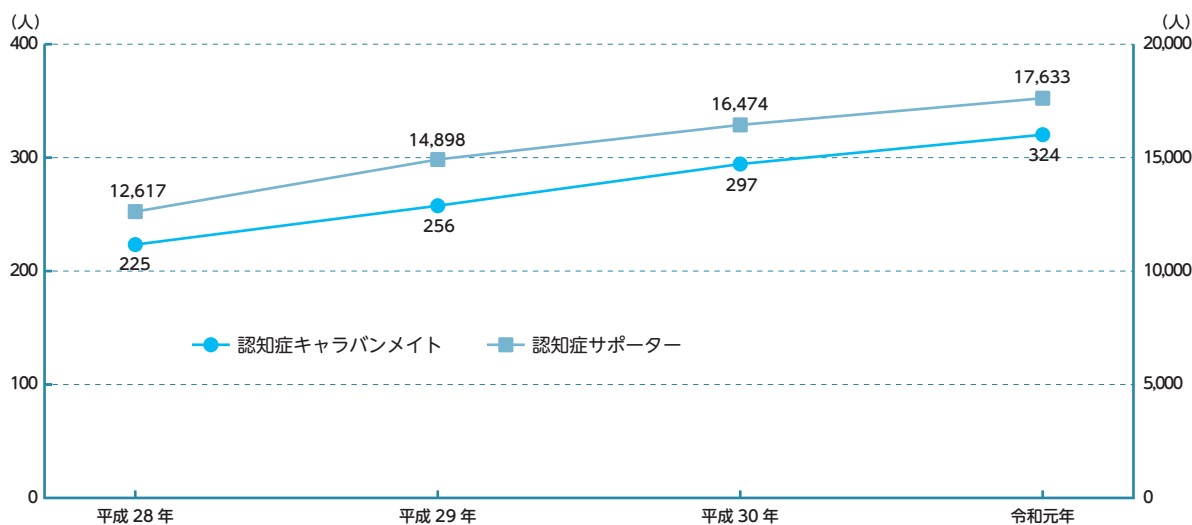
出典：令和元年度鶴見区社協関係機関団体アンケート：区社協会員を対象に、令和元年10月～11月に実施

## 16 認知症キャラバンメイト及び認知症サポーターの数

### 支援が必要な人・家族への理解を深め、見守り支えあえる地域へ

- ・高齢化が進む中、認知症がある人を地域で見守り支えあう体制づくりが進んでいます。相談できる場所につなげる、簡単な手助けをする「サポーター」が増えています。

【認知症キャラバンメイト・認知症サポーターの数】



出典：鶴見区高齢・障害支援課